

3領域	項目	保護者用	教職員用	低学年用	中学年用	高学年用
知識・技能	1	お子さんは、この半年間に学んだ知識や技能が身につく、普段の生活の中でも使う場面がある。(知識・技能)	基礎的・基本的な知識や技能が身につく、学んだ知識や技能が他に転用して使えるように授業を組み立てている。(知識・技能)	かん字やけい算など、ならったことはよくおもい出(だ)せるし、つかうことができます。	教室で学んだことは、よく思い出せるし、ほかの問題(もんだい)や場面(ばめん)でもつかうことができます。	学校で学んだ知識(ちしき)ややり方などはよく思い出せるし、他の教科や生活の中でつかうことができます。
	2	家族内では言葉を選び、順序を考えて話したり、相手意識をもたせたりしている。お子さんに単語だけでなく、文や文章で話すようにさせている。(言語能力)	子どもたちが正確に伝えたり受け取ったりできるよう、自らの言葉を選び、組み立てを考えて話したり、書いたり、伝えたりした。また子どもたちに単語だけでなく、文や文章で話すようにさせている。(言語能力)	あいての人にわかるように、いろいろなことばをつかって話(はな)しています。	ことばづかひに気をつけて、あいての人がわかりやすいように伝える内ようやじゅんぱんを考えると話しています。	相手(あいて)によって話し方を変え、相手にわかりやすいように言葉を選んだり順序を考えたりして伝えることができます。
	3	家族のことで、必要な情報が何かをお子さんと一緒に考えたり、調べたりする時間を持つようにしている。(情報収集能力)	必要な情報を集めたり、情報をつなぎ合わせたりして、新たな考えに気づくような授業づくりに努めた。(情報収集能力)	じぶんの考(かんが)えと友(とも)だちの考えをよくきいたり、くらべたりできます。わからないことは、先生に聞(き)きます。	教科書や本、資料(しりょう)に書かれたことは意味(いみ)もよくわかり、自分の考えをもつてきます。わからないことは、本やインターネットで調(しら)べます。	教科書や資料(しりょう)、身近な説明書(せつめいしょ)に書いてあることは意味もよくわかります。自分の考えをもつときは、本やインターネットで調(しら)べます。
	4	言葉だけでなく、絵や図、写真などを使い、どうしたらよくなるかをお子さんに気づかせている。(表現力)	児童が表現するとき、絵や図、表やグラフなどを使い、表現のはばが広がるよう指導に努めた。(表現力)	ことばづかひに気をつけて、ほかの人が気持ちよく聞(き)けて、よくわかるように話しています。	学んだことをかじょう書きにまとめたり、絵や図、表やグラフ、ギガたんなどを使(つか)ってほかの人に伝(つた)えたりできます。	相手に伝える内容を意識(いしき)して話したり、書いたりしています。絵や図、表やグラフを入れたり、GIGAたんまっつなどを使って伝えたりできます。
	5	お子さんが自分の考えを言ったり、判断したりできるような時間をもつようになっている。(問題発見・解決能力、判断力)	授業の中で、子どもたちの自力思考や判断ができるような時間大切にしている。(問題発見・解決能力、判断力)	じぶんならどうする、じぶんはこう思(おも)うなど、じぶんの考(かんが)えをもつことができます。	他の人と考えがちがっても、自分で正しいと思うことをきめたり、考えてから行動したりしています。	問題を見つけたり、調べ方や解決方法を考えたり、予定を立てたりして、問題を解決できるようにしています。
	6	ニュースなどや家族の話し合いを通して、新たな考えや別の見方もあることに気づかせている。(思考力・深い学び)	他の意見や資料と出会うことで、初発の考えをより深めたり広げたりできるように授業を組み立てた。(思考力・深い学び)	友だちの考(かんが)えを聞(き)いて、しらなかったことやあたらしいことに気(き)づいたことがあります。	教科書に書いてあることや体験(たいけん)したことや友だちの意見がつながって、自分の考えが新しい考えにかかわることがあります。	教科書や資料(しりょう)、表やグラフ、友達の見方や自分の体験(たいけん)などがつながって、新しい見方や考え方になることがあります。
思考力・判断力・表現力	7	教室での学びと、外の出来事や体験とのつながりがわかるようにお子さんと関わっている。(体験とのつながり・深い学び)	教室での事前や事後の学びと、体験学習や校外学習がつながるよう工夫した。(体験とのつながり・深い学び)	そだてたあさがおや野(の)さいのことはよくおぼえています。学校たんけんや町(まち)たんけんであたらしくわかったことがあります。	教室でならったことやしらべたこと、育(そだ)てた植物(じぶつ)や町たんけん、校外学習などで見たり聞いたりしたこととのつながりがよくなります。	教室で学習したことと自然教室や修学旅行、校外学習で、見たり聞いたり体験したりしたこととのつながりがよくなります。
	8	予定や見通しを共有したり、お子さんの興味や関心を伸ばそうとしたりしている。(学びに向かう力)	学習内容に対して見通しや面白さを感じるように授業を工夫・改善し、学び方を振り返ることができるようにしている。(学びに向かう力)	学校でならうことや、じぶんでしらべるとは、おもしろい思(おも)いがあります。	もっと知りたいと思ったことやわからないことは、すぐに人に聞いたり、じしよやギガたんなどで調(しら)べたりします。	興味(きょうみ)のあることやわからないことを調べる方法を思いつき、時間がたつてからもおぼえていたり、わかるまで調べたりしています。
	9	お子さんが丈夫な体をつくれるよう、運動、食事、睡眠、生活リズム、感染防止など健康的な生活を心がけている。(健康)	じょうぶな体をつくり、健康に過ごせるよう、休み時間や体育等の中で運動量の確保に努め、感染防止を含め健康的な生活となるよう指導した。(健康)	よく食(た)べたり、よくねたり、手(て)あらい、はみがきなどに気(き)をつけています。	あそんだり運動したり、よく食べたり、よく寝たり、病(びょう)気(き)にならないようにけんこうに気をつけています。	じょうぶな体をつくれるように運動したり、よく食べたり、よく寝たり、病(びょう)気(き)にならないように健康(けんこう)に気をつけています。
	10	家の防災グッズをお子さんと一緒に用意したり、通学路の危険箇所を考えたり、防災訓練への参加や家族の集合場所を決めたりするなど、お子さんが一人のときも自分の身を守るようにしている。(安全・自律)	避難訓練などの行事や日常の機会をもらえて、交通安全や防災の意識をもち、登下校も含めて子どもたちが自分で自分の身を守るよう、指導した。(安全・自律)	一人(ひとり)でいるときに火(か)じや、じしんがあつたら、どうしたらいいかわかります。	一人でいるときに水(みづ)がいや火事(かじ)や地(ち)しんがあつても、どうしたらいいかわかるし、声をかけあうこともできます。	一人でいるときに水害(すいがい)や火事(かじ)や地震(ちしん)があつても、どうしたらいいかわかるし、できる範囲(はんい)は(は)んい)でまわりの人を助けることもできます。
	11	家族のそれぞれの良さを活かして役割分担するなど、家族みんなで課題を解決したり、温暖化防止などSDGsなどに取り組んだりしている。(協働)	それぞれの良さを活かし、グループや学級等の集団の力で学級や学校の課題、地域や地球全体に関わるSDGsのような課題に向き合えるような授業づくりをした。(協働)	じぶんや友だちのいいところを言えます。じぶんでできることをがんばってやろうとしています。	悪いところをせめたりせず、自分や友だちのいいところを見つけようとしています。自分のたんどうや当(あた)りまわりの仕事(しごと)は、最後(さいご)までやります。	学習でも生活でも、自分や学級、家族や地域、地球を良くする目標(もくひょう)などを考えてまわりの人と協力(きょうりょく)し、自分の役割(やくわり)を最後までやります。
	12	相手の気持ちや状況を想像して、お互いを思いやり、ふさわしい行動ができるようお子さんに伝えている。(共生・人間性)	相手の気持ちや状況を想像して、お互いを思いやり、ふさわしい行動ができるよう、子ども達に指導した。(共生・人間性)	じぶんもみんなも、気(き)もちよくいられるようにしています。	あい手の人の気持ちを考え、自分やみんなが気持ちよくいられるように話したり行動したりしています。	相手の気持ちを考え、自分やまわりが気持ちよくいられるような言動をしています。なじみのない人にもあいさつしたり、困(こま)まっていると気づいた時は、助(たす)けようとしています。
	13	ともに生きる家族や知り合い、近所の人などへのあいさつをし、誰に対しても公平に接する姿をお子さんに示している。(公平・平等)	この学校でともに活動するすべての児童、保護者、教職員に思いやりをもち、公平に接した。(公平・平等)	ふだんはあまりあそばない友(とも)だちも、なかよく話(はな)したり、いっしょにあそんだりできます。	はじめて会う人やふだんはあそばない友(とも)だちも、なかよく話(はな)したり、いっしょに活動(かつどう)したりできます。	初めて会う人やふだんあそばない友(とも)だち、他学年の人も、話(はな)したり、活動(かつどう)したりできます。どんな人にも同じように接(せつ)しています。

学びに向かう力・人間性